

ZEPHYROS

ゼフェロス No.83

The National Museum of Western Art, Tokyo 国立西洋美術館ニュース

2020年8月20日発行

ISSN1342-8071



国立西洋美術館の 2019年度収蔵作品について

2019年度収蔵作品について エドゥアール・マネ 《嵐の海》



図1 「松方コレクション展」展示風景

近代絵画の巨匠マネはパリの人々や風俗を鮮やかに切り取った作品で知られますが、青年時代には海軍兵学校を目指した時期もあり、画業を通じて一群の海景画を手掛けています。マネらしい素早いストロークと、墨絵を思わせる最小限の色使いで荒天の海を描いたこの作品は川崎造船所初代社長松方幸次郎の旧蔵作品です。そして松方コレクションのなかでもとりわけ数奇な運命をたどってきた作品の一つです。

20世紀初頭のヨーロッパで築かれた松方コレクションは、経営破綻の責任を取って松方が造船所社長を辞任した1928年以降、散逸期に入ります。ロンドン、パリ、そして日本に分かれて保管されていた作品はそれぞれ異なる運命をたどりました。そのうちパリ保管分は1959年の当館の創設の礎となるものでしたが、第二次世界大戦期、戦火を逃れて疎開していた時期に一部が売却されて所在不明となります。

そうした作品の一つであったマネの《嵐の海》は、画商たちによる転売の結果、ヒルデブラント・グルリットのコレクションに入っていたことが近年わかりました。ナチスの協力画商で



図2

表紙、図1、図2
エドゥアール・マネ
《嵐の海》1873年
油彩、カンヴァス 55cm×72.5 cm
旧松方コレクション 国立西洋美術館

あったグルリットのコレクションには正当な取引による作品だけではなく、ユダヤ人から略奪された作品や退廃美術として押収された作品までが混在していたことから、2013年に半世紀ぶりに発見された際に世界的な話題を集めたことは記憶に新しいところです。

今回の収蔵によって、このマネ作品は半世紀ぶりに松方コレクションの作品群と合流するにいたりました。不穏な空の下を2艘の船が進む海を描いた本作品は文字通り、嵐の海を越えて松方コレクションがたどってきた長い旅路を象徴するものです。同時に、戦争の悲劇を背負った数々の美術作品の道行とも深く交差していた作品として、あらためて20世紀の歴史を考えるきっかけともなってくれるのではないのでしょうか。

(国立西洋美術館主任研究員 陳岡 めぐみ)

現在ではご覧いただけません。

フランシスコ・デ・スルバラン 《聖ドミニクス》

これは、17世紀スペイン絵画を代表する画家のひとりであるフランシスコ・デ・スルバラン(1598-1664年)による初期の重要作品です。近年、およそ100年ぶりにその所在とスルバランの真筆であることが確かめられ、2019年に国立西洋美術館が収蔵しました。

描かれた聖ドミニクスは、ドミニコ会修道院の創設者で13世紀初めの聖人です。傍らの犬が彼の持物である松明を咥え、その端に火が灯っていることは、聖人の背後に仄かな光が広がることから確認できます。これは、ドミニクスの母ヨハンナが妊娠中、松明を咥えた犬が胎内から跳び出し火を放つ夢を見た、という伝承に基づきます。漆黒の背景から祈りを捧げる人物が浮かび上がる、瞑想性に満ちた雰囲気は、「修道僧の画家」とも呼ばれるこの画家の真骨頂を示しています。

本作は、その様式、技法的特徴からスルバランが1626-27年にセビーリャのサン・パブロ・エル・レアル修道院のために描いたものと考えられます。作品の周囲には後代の補修によるカンヴァスが付け加えられるなど、状態が改変されているものの、人物を描いたオリジナルの支持体はマンテル(またはマンテリリーヨ)と呼ばれる布地が用いられています。これは、山形の斜文線を織りこんだ綾織りによる大型の布地で、同修道院由来の他の聖人像をはじめ、スルバランが初期の大型作品にしばしば用いたものです。こうした特徴は、本作がサン・パブロ修道院のための制作であったことを強く裏付けています。

この作品は、当館所蔵の17世紀スペイン絵画としては、フアン・バン・デル・アメン《果物



フランシスコ・デ・スルバラン
《聖ドミニクス》1626-1627年
油彩、カンヴァス 201.5cm×135.5cm
国立西洋美術館

と猟鳥のある静物》(P.2014-2)やペドロ・デ・オレンテ《聖母被昇天》(P.2018-3)に続く6点目の収蔵となります。対抗宗教改革期のスペインの熱烈なカトリズムを色濃く反映する作品であり、本作は常設展の核をなす作品として今後展示していく予定です。

(国立西洋美術館主任研究員 川瀬 佑介)

常設展でご覧いただけます。

松方コレクション展を終えて



図1 オーギュスト・ロダン《善き精霊》
1895-1900年頃、1961年（鑄造）
ブロンズ 岡本和子氏より寄贈
国立西洋美術館 撮影：◎上野則宏



図2 レンブラント・ハルメンスゾーン・ファン・レイン
《施しを受ける盲目の手回し風琴弾きとその家族》
1648年 エッチング、ドライポイント/カートリッジ紙
16.4 cm×12.8cm
松方幸次郎氏ご遺族より寄贈（旧松方コレクション） 国立西洋美術館

2019年に開館60周年を迎えるにあたって国立西洋美術館は設立の基礎となった松方コレクションに新たな光をあてる展覧会を開催しました。国外からも作品を集めて作品総数約160点の規模で松方コレクション展を開くのは当館にとってもこれが初めてのことでしたが、予想を大幅に超える50万人近い来場に恵まれ、古くて新しい松方コレクションの魅力を広める良い機会になりました。

今回の展覧会は、館内外の松方コレクション研究の蓄積をふまえつつ、当館の近年の調査研究の成果にもとづいてコレクション形成と散逸の動きを歴史的に検証することを目指したものです。その調査研究の柱となったのは『松方コレクション 西洋美術全作品』（全2巻、2018-2019年）編纂でした。この出版事業は岡本寛志・和子ご夫妻の篤志を受けて始まりました。当館はこれまでご夫妻からはセガンティーニ《花野に眠る少女》をはじめ松方旧蔵作品を中心とす

る作品のご寄贈・ご寄託も賜っており、2016年の本館の世界文化遺産登録の際にはお祝いとしてロダン《善き精霊》をご寄贈いただきました。このブロンズ作品は、昨年末に永眠された岡本和子氏を記念しまして、現在、新館1階に展示しています（図1）。誌面を借りまして、ご夫妻のご厚情にあらためて深く感謝申し上げます。

松方コレクションをめぐる調査研究は引き続き進めていきますが、国内外に散逸した松方旧蔵作品に関する情報は展覧会の会期中から今日まで当館に寄せられ続けています。その中にはマネ《嵐の海》（本誌1頁参照）やレンブラントのエッチング《施しを受ける盲目の手回し風琴弾きとその家族》（図2）、シャルル・オグエ《フランスの海岸》、ジャン＝パティスト・マドゥー《婚約》のように寄贈や購入を通じて収蔵にいたった作品もあります。これも今回の展覧会の大きな成果といえるでしょう。

（国立西洋美術館主任研究員 陳岡 めぐみ）

国立西洋美術館の臨時休館について

— 甦るル・コルビュジエの前庭 —

国立西洋美術館は2020(令和2)年10月19日以降、約1年半臨時休館をいたします。これは、前庭の下にある企画展示館上部の防水工事をやり直すため、1994(平成6)年10月より1998年3月にかけて行われた企画展示館増設工事から22年が経ち、防水の耐用年数が過ぎたためです。この間、2016(平成28)年には本館がル・コルビュジエ設計ということでユネスコの世界文化遺産に登録されました。そのさい、世界遺産決議で、当初に比べ「顕著な普遍的価値が減じている」という指摘を受けたため、今回の工事のさいに、本館の前庭をル・コルビュジエ設計に限りなく近く、創設当初の姿に戻すよう専門家のご意見も伺いながら決定したところ。というのも、1999年に暑熱対策と上野恩賜公園の緑化計画に伴って、前庭に多くの植栽を配置したため、大きく様相が変わっていたからなのです。

工事ののちは、したがって前庭の様子は、開館当初に近くなります。当時は、前庭には彫刻が数点と、その足元に少しの芝生があるだけで、鉄柵を通して道路から建物が直接見えるようになっていました。それはル・コルビュジエが、道路を隔てて存在する、弟子の前川國男の設計による東京文化会館の建物との連続する空間を強く意識していたからなのです。ル・コルビュジエは野心的な構想を持っていました。それは道路と美術館の敷地を一体



1959年開館当時の本館外観
撮影：東京フォトアート

のものと考え、柵も設けずに人々が散策しつつ、建物と彫刻を鑑賞する空間を想定していたのです。

その後設計時の検討で、警備や保安の観点から柵は設けられましたが、開館から40年は、ル・コルビュジエの考えた前庭は維持されてきたのです。

今回の工事の後、豊かな緑に囲まれた前庭が一変します。見慣れた植栽がなくなることを寂しいと思う方もあるでしょう。しかし、ル・コルビュジエの前庭もなかなかのもので、彼はモデュロールという自らが考えた設計の単位をあらゆる線を、前庭の各所に配置しました。その線が復活することで、ル・コルビュジエの動線も復活し、彼がどんな風に人々を迎え入れたかったかが、より分かりやすくなるはず。です。

(国立西洋美術館長 馬淵 明子)

スクール・ギャラリートーク 盲学校との鑑賞活動



当館で実施している学校団体対象のスクール・ギャラリートークには、盲学校、ろう学校などの特別支援学校も参加しており、それぞれに合った鑑賞プログラムを行っています。その中でも今回は、視覚障害のある生徒がブロンズ彫刻を手で触って鑑賞する触察について紹介します。

通常美術館では、作品保全の観点から鑑賞者は作品に触れることができないため、触察の際は館内の各部門が協力して準備を進めます。まず教育普及室が学校の先生から来館の目的や生徒の様子をよく聞き、その後、収蔵彫刻を管理する絵画・彫刻室に相談しながら作品を選びます。そして保存修復室がブロンズ彫刻にワックスを厚めに塗り、台座を固定する金具の鋭利な部分をテープで覆うなどの処置を施すことで、作品の保全に配慮しながら生徒が安全に触れる準備を整えます。

一方で、生徒が主体的に作品を楽しむための準備も進めます。鑑賞の手助けをする教育普及室とボランティア・スタッフは、事前に学校を訪問して一人一人の障害、性格、興味をできるだけ知り、その上で作品情報を取捨選択して

トークのプランを作ります。当日生徒たちは美術館に来ると、まず作品の形、大きさ、感触をじっくりと触察します。そして、言葉で説明を聞く、体で同じポーズをとる、再度触る、自分なりの解釈を話し合うなど、多様な活動を通して鑑賞を深めていくのです。生徒からは「触る向きや角度を変えることで見えてくる世界が変わった」、「様々な解釈をしながら鑑賞できた」などの感想がありますが、私達スタッフもこれまで知らなかった物の捉え方や作品の魅力に気づかされていると実感します。

2020年8月現在、当館では新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点からスクール・ギャラリートークなどの教育普及プログラムを中止していますが、近年は毎年5校ほどの特別支援学校と鑑賞プログラムを行ってきました。館内の専門部署や学校と連携することで環境を整え、多くの児童・生徒が美術館を楽しむことができるよう、今後もこのような取り組みを積み重ねていきたいと思えます。

(国立西洋美術館特定研究員 松尾 由子)

開催報告

「明治の工芸／平成の工芸」

— 150年の時代を超えた日本のわざと装飾の美 —

昨年2019年、日本とギリシャは国交樹立120周年を迎えました。これを記念して、当館とギリシャ文化・スポーツ省は、昨秋の11月より2ヶ月間アテネのギリシャ近代文化博物館で「明治の工芸／平成の工芸」と題する展覧会を開催しました。ギリシャ近代文化博物館は、アテネの古代アゴラ遺跡脇に場所を移し、装いも新たに一部再オープンしたばかりで、本企画はそのこけら落としの展覧会となりました。

出品されたのは明治、平成の作品それぞれ31点ずつからなる計62点で、陶磁、漆工、金工、七宝、染色など多彩なジャンルで構成されました。作家は幕末から明治にかけて国内のみならず世界の万国博覧会でも活躍した近代の25人と、昭和から平成にかけて日本工芸を牽引しつつ、海外でも活動し高く評価された現代の25人です。本展に対しては、京都国立近代美術館をはじめとする公立の所蔵館、そして多くの所蔵家の方々のご協力くださいました。



ギリシャ近代文化博物館 外観



「明治の工芸／平成の工芸」展 展示風景

現代ギリシャ人にとって明治時代の日本工芸はたとえば浮世絵ほど馴染みがあるわけではありませんが、その精妙を極めた技巧と装飾に、来場者の多くが新鮮な驚きを感じたようです。一方、伝統を継承しつつ、国や芸術分野の境界を取り払い、新たな美意識と創造性によって生み出された平成の作品には、少なからぬ人々が強い共感を抱いたのではないのでしょうか。

当館が日本文化を紹介する本展を企画したことに応じる形で、ギリシャ側は今年の夏に当館で開催予定だった「スポーツ in アート展」に対して、国内所蔵の大理石彫刻をはじめとする古代の名品を多数出品するはずでしたが、残念ながら当企画展は開催取り止めとなってしまいました。しかし、「明治の工芸／平成の工芸」展がきっかけとなって、今後、両国の文化的な友好関係がますます発展することを心から願います。

(国立西洋美術館主任研究員 飯塚 隆)

休館日 土日・祝日

AUG 8	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月

ロンドン・ナショナル・ギャラリー展 6月18日(木)～10月18日(日) (企画展示室)

内藤コレクション展Ⅱ「中世からルネサンスの写本 祈りと絵」 6月18日(木)～8月23日(日) (新館展示室内)

SEP 9	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日

ロンドン・ナショナル・ギャラリー展 6月18日(木)～10月18日(日) (企画展示室)

内藤コレクション展Ⅲ「写本彩飾の精華 天に捧ぐ歌 神の理」 9月8日(火)～10月18日(日) (新館展示室内)

OCT 10	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土

ロンドン・ナショナル・ギャラリー展 6月18日(木)～10月18日(日) (企画展示室)

内藤コレクション展Ⅲ「写本彩飾の精華 天に捧ぐ歌 神の理」 9月8日(火)～10月18日(日) (新館展示室内)

全館休館:

2020年10月19日(月)～2022年春(予定)

NOV 11	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月

全館休館: 2020年10月19日(月)～2022年春(予定)

●臨時開館・全館休館のお知らせ

*8月10日(月・祝)、8月11日(火)、9月21日(月・祝)は開館します。

*2020年10月19日(月)から2022年春(予定)まで全館休館します。

●常設展示

ロダンやブールデルの彫刻と中世末期から18世紀末頃までのオールド・マスターの絵画、モネ、ルノワールなどのフランス近代絵画と20世紀初頭までの絵画を展示しています。

(展示作品については、館内インフォメーションでおたずねいただくか、当館ホームページをご覧ください。)

※展覧会名、会期、展示内容等は変更されることがあります。

※作品の保存・貸し出し等の状況により、掲載された作品をご覧いただけない場合がございます。

※混雑緩和のため、当面の間は毎月の第2・第4土曜日の常設展無料観覧日および毎週金・土曜日17時以降の常設展観覧料無料化を中止いたします。

国立西洋美術館

●所在地…〒110-0007 東京都台東区上野公園7-7

●開館時間…午前9時30分～午後5時30分

金曜・土曜日 午前9時30分～午後8時

6月18日(木)～10月18日(日)の金曜・土曜日は、午前9時30分～午後9時

常設展開室時間…午前9時30分～午後5時30分

金曜・土曜日 午前9時30分～午後8時

6月18日(木)～10月18日(日)の金曜・土曜日は、午前9時30分～午後9時

企画展開室時間…午前9時30分～午後5時30分

金曜・土曜日 午前9時30分～午後8時

6月18日(木)～10月18日(日)の金曜・土曜日は、午前9時30分～午後9時

*入室は閉室の30分前まで

●休館日…月曜日(ただし、月曜日が祝日あるいは振替休日となる場合は翌平日)

*その他、臨時に休館することがあります。

●お問い合わせ…ハローダイヤル: 03-5777-8600

<https://www.nmwa.go.jp/>

※誌名について…「ZEPHYROS」(ゼフェロス)はギリシャ神話の神々のひとり、西風を司る神様の名前です。西欧では暖かさや色ざまざまの花々を運び春の風をさします。

ZEPHYROS

ZEPHYROS 第83号

編集・発行 国立西洋美術館/2020年8月20日(年4回発行)
協力 公益財団法人 西洋美術振興財団
印刷 (株)アイネット



国立西洋美術館
The National Museum of Western Art